

**宮城県上工下水一体官民連携運営事業
(みやぎ型管理運営方式)**

**令和 6 年度半期・第 2 四半期業務報告書
(法人・個別事業統合版)
公開版**

令和 6 年 11 月 13 日

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ

[HP 公開版の位置づけ]

本報告書（HP 公開版）は、県に承認された報告書から以下の要素が含まれる部分を編集し、また、専門家ではない県民の皆様のご理解を深めて頂くことに資する「解説」等を追記したバージョンです。

編集を施した事項

- ・個人情報等に類する広く一般に公開することが適さない事項
対応) 限定的に一部情報を削除

目 次

第1章 年間事業計画と実績の差異分析	1
第2章 財務数値及び財務指標	3
2.1 財務数値	3
2.2 財務指標	4
第3章 県民等とのコミュニケーションに関する実施内容	4
3.1 広報活動	4
3.2 見学者の受け入れ	8
3.3 苦情等への対応	9
第4章 課題認識と下半期の見直し	10
参考資料 株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値	16

別紙1 予実比較表	
-----------	--

第 1 章 年間事業計画と実績の差異分析

年間事業計画の本文に記載した計画と、令和 6 年度第 2 四半期までの実績の差異状況を表に示す。「○」は進捗が計画通りであることを示し、①～④は差異が生じており、以下に差異理由を示す。

- ① 夏季の水道用水供給事業における供給水量の増加や、実施契約別紙 10-4 で定められた臨時改定に起因する売上高の増加により、法人の営業利益は計画時の 55%程度となり良好な経営状況である。ただし、通期では概ね計画通りの売上高、営業利益に着地することを予想している。各事業の差異の詳細は第 2 章に示している。
- ② 経営審査委員会からの要望等を踏まえ、水質情報ダッシュボードに加えて、財務情報の充実を目的として「決算情報ダッシュボード機能」を当社ホームページに追加し、7 月より公開した。
- ③ 仙南・仙塩広域水道用水供給事業において、南部山浄水場における水運用計画との調整により、令和 6 年度末に同浄水場の濃縮槽に導入予定だった回転羽根付汚泥掻寄機の完工が、令和 7 年度 8 月となった。なお、導入予定の 2 基のうち 1 基は令和 6 年度末までに導入予定である。また、仙塩工業用水道事業の鶴ヶ谷ポンプ場、仙台圏工業用水道事業の熊野堂取水場の送水ポンプの更新事業が、機器納期と電気設備切替時期の兼ね合いにより、完工時期を令和 6 年度から令和 7 年度に変更した。
- ④ 仙南・仙塩広域用水供給事業において、南部山浄水場の塩素注入施設で発生した突発事象の対応により応急給水訓練の実施時期を 9 月から 10 月に変更した。

表 年間事業計画と実績の差異表

○：差異無し 番号：下表に詳細を記載

年間事業計画	法人	個別事業								
		大崎 広域 水道	仙南・仙 塩広域 水道	仙塩 工業用 水道	仙台圏 工業用 水道	仙台北 部工業 用水道	仙塩 流域 下水道	阿武隈 川下流 流域 下水道	鳴瀬川 流域 下水道	吉田川 流域 下水道
第1章 計画書の位置づけ										
第2章 経営に関する計画										
2.1 組織体制	○	(法人と同じ)								
2.2 役員構成	○									
2.3 有資格者の配置	○									
2.4 予定する委託業務	○									
2.5 収支計画	①									
2.6 セルフモニタリング	○	(法人と同じ)								
2.7 情報公開	②									
2.8 環境対策	○									
2.9 地域貢献	○									
第3章 維持管理に関する計画										
3.1 維持管理の位置づけ										
3.2 維持管理方針	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.3 維持管理体制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.4 維持管理に係る必要資格	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.5 維持管理計画	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第4章 改築に関する計画										
4.1 改築の位置づけ										
4.2 改築方針	③	○	③	③	③	○	○	○	○	○
4.3 改築実施体制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.4 改築に係る必要資格	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.5 改築計画	○									
第5章 危機管理に関する計画										
5.1 訓練・教育	○	○	④	○	○	○	○	○	○	○
5.2 ワークショップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5.3 各種事業計画の見直し	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第2章 財務数値及び財務指標

2.1 財務数値

当社の令和6年度第2四半期の財務数値を表2-1、表2-2に示した。また、四半期ごとの損益計算書系財務数値の予実比較を、別紙1にまとめた。なお、株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値は参考までに巻末に示した。

表 2-1 財務数値（損益計算書系）（令和6年度第2四半期末累計）

単位：百万円

項目	法人	個別事業								
		大崎 広域 水道	仙南・仙塩 広域 水道	仙塩 工業用 水道	仙台圏 工業用 水道	仙台北 部工業 用水道	仙塩 流域 下水道	阿武隈川 下流流域 下水道	鳴瀬川 流域 下水道	吉田川 流域 下水道
売上高	3,471	739	747	123	69	26	685	700	83	237
売上総利益	696	236	233	43	26	6	50	66	10	11
営業利益	576	204	197	42	25	4	30	47	8	4
経常利益	520	185	181	37	22	4	25	42	7	2
税金等調整前純利益	520									
純利益	360									

※端数は百万円未満を切り捨て。以下同様。

表 2-2 財務数値（貸借対照表系）（令和6年度）

単位：百万円

項目	前期末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
現金及び現金同等物の 四半期末残高	6,272	6,355	6,553		
純資産合計	3,832	5,227	5,361		
有利子負債残高	7,587	7,500	7,500		
負債合計	10,804	8,210	8,321		
総資産合計	14,637	13,437	13,683		

解説： PL 系財務数値の前年同期比

令和5年度第2四半期までの数値と比較すると、売上高が171百万円減少しました。理由としては、当年度において前期との比較で物価上昇がやや沈静化（主に電力費）し、それにともない臨時改定の基準となる物価指標も低下したことがあります。物価指標の低下により実施契約上の臨時改定の改定幅も圧縮されたため、動力費の影響が大きい流域下水道事業を中心として売上高が減少しました。

2.2 財務指標

当社の令和 6 年度第 2 四半期の財務指標を表 2-3 に示した。

表 2-3 財務指標（令和 6 年度）

項目	前期末	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	第 4 四半期末
流動比率	301%	1,260%	1,065%		
DSCR	18.5	6.0	5.8		
有利子負債比率	118%	95%	93%		

※株主融資である劣後ローンは資本とする

第 3 章 県民等とのコミュニケーションに関する実施内容

3.1 広報活動

当社の令和 6 年度第 2 四半期の広報活動は以下である。（株式会社みずむすびサービスみやぎと連携して実施している活動を含んでいる。）

（1）当社が実施した広報活動

■ 水の教育プログラム

7 月 12 日（金）開催の「みやぎ教育応援団マッチング会議」に参加（図 3-1）し、当社が実施をしている施設見学、自由研究バスツアー、出前授業、みずむすびフェスについて紹介した。



図 3-1 みやぎ教育応援団マッチング会議

■ 当社ホームページによる情報発信

年間事業計画書（法人版）表 2.9.2-1 の「ホームページの活用」に関する項目に基づき、ホームページを通じた情報発信を行った。

● 水質データ

上水・下水は月 1 回、工水は毎日（土日祝日を除く）水質試験データを更新した。

- 調達契約情報
建設工事に関する契約情報の更新や公募公告の掲載等を表 3-1 のとおり発信した。
- 財務情報
当社とみずむすびサービスみやぎの令和 5 年度決算情報を BI ツールを用いてわかりやすくとりまとめた「決算情報ダッシュボード」を公開した。

表 3-1 調達契約情報発信状況

日付	更新内容
7/2	契約情報更新「中峰浄水場次亜塩素酸注入設備更新工事」他 1 件
7/9	令和 6 年度：建設工事・建設関連業務の発注見通しを更新（4 件追記）
7/12	公募公告掲載「仙台ポンプ場ほか自家発電設備改築工事」1 件
7/16	契約情報更新「鹿島台浄化センターほか設備改築詳細設計委業務託」他 2 件
7/25	契約情報更新「角田ポンプ場ほか電気設備改築工事」他 1 件
7/31	契約情報更新「麓山浄水場濃縮槽詳細設計委業務託」
8/2	契約情報更新「県南浄化センター機械濃縮設備等改築工事」他 3 件
8/22	契約情報更新「仙台ポンプ場ほか自家発電設備改築工事」
9/19	契約情報更新「大和浄化センター 2 系反応タンク・重量濃縮設備改築工事」
9/25	公募公告掲載「仙塩浄化センターおよび塩釜中継ポンプ場電気設備改築工事」

- 業務報告書
以下の通り、報告書を公開した。
 - 7 月 12 日 みずむすび 2 社『令和 5 年度決算公告および財務諸表一式』
 - 7 月 31 日 令和 5 年度『年間業務報告書』及び『セルフモニタリング結果報告書』
 - 9 月 4 日 令和 6 年度第 1 四半期業務報告書
- ニュースリリース
以下のとおり、ニュースリリースを実施した。
 - 7 月 2 日 2024 自由研究バスツアー開催のお知らせ（更新 7/2）
 - 7 月 4 日 第 1 回 PPP/PFI 事業優良事例大臣賞受賞について
 - 7 月 12 日 建設工事・建設関連業務公募広告情報掲載のお知らせ（2 件）
 - 7 月 12 日 みずむすび 2 社の決算情報「見える化」の拡大について
 - 7 月 30 日 改善モニタリング委員会を開催しました
 - 8 月 13 日 2024 自由研究バスツアー開催報告
 - 8 月 27 日 建設工事公募広告情報掲載のお知らせ（1 件）
 - 8 月 29 日 小水力発電事業（任意事業）の発電所開所式を開催

9月12日 「みずむすびフェス 2024」開催のお知らせ

■ ボランティア活動

年間事業計画書（法人版）表 2.9.2-1 の「ボランティア活動」に関する項目に基づき、清掃活動等を行った。

● 清掃ボランティア活動

- 7月 3日 鶴ヶ谷ポンプ場周辺、熊野堂取水場周辺
- 7月 9日 セツ宿ダム周辺
- 8月 6日 郷六取水場周辺、熊野堂取水場周辺
- 8月 7日 県南浄化センター周辺
- 8月 8日 セツ宿ダム周辺
- 9月 3日 熊野堂取水場周辺
- 9月 5日 大槻浄水場周辺
- 9月 9日 セツ宿ダム周辺
- 9月10日 県南浄化センター周辺
- 9月11日 仙塩浄化センター周辺
- 9月27日 大倉ダム周辺

● みやぎふれあいサポーター

- 9月 7日 多賀城みずむすび公園の清掃活動



図 3-2 多賀城みずむすび公園の清掃活動

■ その他の広報活動

● 協賛広告の掲載等

東北ジャーナル 2024年8月号に広告を協賛出稿した。

河北ウィークリーせんだい（2024年7月11日号）に「自由研究バスツアー 2024」の参加募集広告を出稿した。

（2）当社が協力した県が主催する広報活動

9/9～9/13の下水道の日パネル展に、パネル2枚の展示協力をした。

(3) メディア掲載件数

令和6年度第2四半期に各メディアに掲載された件数と内容を表3-2に示した。

表 3-2 メディア掲載状況

日付	掲載媒体	見出し
7/10	日本下水道新聞	みやぎ型、妙高包括に脚光、内閣府 PPP/PFI 優良表彰
7/11	日本水道新聞	PPP/PFI 表彰 みやぎ型、妙高包括が脚光
8/23	名取市広報	日水コン名取マイクロ水力発電所開所式が行われました
8/24	河北新報	マイクロ水力発電、名取で稼働 日水コン「水道みやぎ」初の任意事業
8/26	建設新聞	みずむすび 日水コン 発電開始でセレモニー
8/26	日刊建設工業新聞	日水コンら／宮城県名取市でマイクロ水力発電開始、みやぎ型管理運営方式の任意事業
9/11	日本下水道新聞	突発事象への対応議論 みやぎ型経営審査委 今年度初会合
9/12	日本水道新聞	突発事象への対応議論 みやぎ型経営審査委 活性炭臨時注入費 県 81.6%負担に

解説： 第1回 PPP／PFI 事業優良事例表彰 大臣賞 受賞

当社は、内閣府が主催する「第1回 PPP/PFI 事業優良事例表彰※」において、宮城県企業局と連名で、他の模範となる特に顕著な実績を有する事業に送られる「大臣賞（人口 20 万人以上の地方公共団体、国等で事業化された事例部門（部門 A））」を受賞しました。

なお、受賞にあたっては、複数の浄水場等を一体的に運営する、分野横断・複数施設型のウォーターPPP の先導的な事例として、特に以下のような視点で評価されました。

- デジタル技術の活用で、経営管理・維持管理・改築の情報を一元化し、効率的な運転管理・保守点検、監視等が実現したこと
- 20 年間の長期事業で 337 億円のコスト削減を実現するとともに、水道料金引き下げ等の公共サービス水準の向上、脱炭素による環境負荷低減などが図られること
- 地域の水インフラを支える会社の設立に伴い多数の地域人材を雇用するとともに、SPC 構成企業として地元企業が参画するなど地域経済に貢献していること

3.2 見学者の受け入れ

当社が管理する各運営権設定対象施設への、令和6年度第2四半期における見学者の受け入れ実績を表3-3に示した。

表 3-3 見学者受け入れ実績

事業名	施設名	日付	団体名	人数(人)
大崎広域水道	中峰浄水場	7/2	近隣の小学校	5
	中峰浄水場	7/31	水道事業関係者	50
	麓山浄水場	9/5	近隣の小学校	4
	小 計			59
仙南・仙塩広域水道	南部山浄水場	7/4	近隣の小学校	22
	南部山浄水場	7/10	地方自治体	8
	南部山浄水場	9/5	近隣の小学校	40
	小 計			70
仙塩工業用水道	大楯浄水場	7/13	NPO 法人	19
	大楯浄水場	8/4	市民団体	8
	大楯浄水場	9/11	省庁	6
	大楯浄水場	9/24	監査法人	8
	小 計			41
仙塩流域下水道	仙塩浄化センター	7/29	近隣の大学	7
	仙塩浄化センター	9/4	企業	8
	仙塩浄化センター	9/11	省庁	6
	小 計			21
阿武隈川下流流域下水道	県南浄化センター	7/5	近隣の小学校	94
	小 計			94
鳴瀬川流域下水道	鹿島台浄化センター	9/18	労働組合	7
	小 計			7
吉田川流域下水道	大和浄化センター	7/31	水道事業関係者	50
	大和浄化センター	9/19	水道事業関係者	15
	大和浄化センター	9/26	企業	3
	小 計			68
合 計				360

3.3 苦情等への対応

第2四半期における苦情等の内容とその対応について、表3-4に示した。

表 3-4 苦情等への対応

事業名	施設名	苦情等 受付日	苦情等の内容	苦情等 対応日	対応内容
任意事業	仙塩浄化センター（太陽光発電施設）	9/25	地域住民より重機の騒音に対する苦情	10/4	防音ネットを設置し、重機の使用を17:00までとする指示

第4章 課題認識と下半期の見直し

昨年度中の業務引継ぎ、および4月以降の事業運営の実績を踏まえ、法人及び各事業の上半期の課題認識と下半期の見通しを、表4-1に示した。

表4-1 上半期の課題認識と下半期の見通し

※継続：令和5年度末までに発生

新規：令和6年度上半期に発生

分類※	上半期の課題認識	下半期の見通し
法人		
継続	① 電力費は昨年度同様に高い水準で推移している。費用構造としては、燃料調整費が横ばいで推移しており、再エネ賦課金は上昇している。定期改定、臨時改定での対応はあるものの、経営への影響は予断を許さない状態である。	① 4月から電気需給契約（特高・高圧）先を変更し、その他の様々な省エネ活動を実施して消費量削減に努めている。政府の支援（4～6、9～11月使用分に適用）も12月分以降は予定されていないことから、特にみずむすびサービスみやぎの経営への大きな影響を及ぼす見込みである。引き続き、業務の合理化・効率化を図り事業全体としてカバーしていく。 【継続課題】
継続	② 電子部品長納期化の影響は昨年度末時点で改善されたが、依然として盤内機器（変圧器など）や高圧ケーブル起因の長納期化が発生している。	② 工事に長納期品が含まれる場合には、余裕を持った工期を設定することで不測の工期延長が発生しないよう配慮する。【継続課題】
継続	③ 中央監視設備のベンダーロックイン問題は一定の手当がされたものの、改築完了までは既設の延命が必要である。	③ 中央監視装置の不具合発生時には、関係企業と情報の共有を適宜行い、不具合の早期解消を図る。【継続課題】
継続	④ 任意事業（小水力発電）について、名取受水点での施工が完了し、現在運用中である。残り3か所の施工についても水質・水量に影響を与えないように施策を講じる必要がある。	④ 引き続き施工計画書、運転管理契約書の精査を実施し、水質・水量リスクの低減をはかっていく。【継続課題】
継続	⑤ 国がウォーターPPPの制度を導入したことを背景に、県内のいくつかの	⑤ ニーズの強弱があるので、特に要望の強い市町との連携において、費用

分類※	上半期の課題認識	下半期の見通し
新規	事業体から当社との連携に関する相談が寄せられている。 ⑥ 広域水道用水供給事業および工業用水道事業において、第2料金期間中の実施を計画している関係市町村等を巻き込んだ「水質事故を想定した訓練」の内容等の企画について関係者との協議を開始する必要がある。	削減や持続的な管理体制の確保等の導入効果の最大化を目指して具体的な検討を実施している。【継続課題】 ⑥ 関係者との企画内容の協議を開始して検討を進める。【継続課題】
大崎広域水道事業		
継続	① 中峰浄水場の原水の色度、有機物が高いことからPAC増量のみでの除去が困難であり、沈殿池TOCが管理目標値を超過することが度々発生していた。	① ジャーテスト等による検証を適宜実施し、TOCを管理指標として、活性炭を適切に注入することで安定的な水質管理が実施できている。【完了】
新規	② 麓山浄水場の2系混和池攪拌機更新工事に伴い2系の停止が必要であるが、1系のみの運用では工事作業時間確保が困難である恐れがある。	② 水運用シミュレーションを実施し、一定の作業時間を確保した。当該の工事は11月中旬に完了する予定であり、完工まで適宜関係者と情報共有を図り、不測の水量不足等の発生を防ぐ。【継続課題】
仙南・仙塩広域水道事業		
継続	① 昨年度に引き続き、原水水質悪化に起因する有機物量の対策強化が必要であった。	① 有機物・水温の影響は昨年度よりも小さかった。結果としてPAC増量による対応で消毒副生成物を抑制できている。E260を有機物の指標とする管理で末端受水点での消毒副生成物の数値も安定していた。【完了】
継続	② 昨年度の南部山浄水場浄水池内部点検時に池天井部から漏水が判明し、1池の使用停止が継続している。漏水補修に加え、原因の一つと考えられ	② 県と協議をし、来年度以降に県が浄水池の抜本的な防水工事を実施することで調整中である。【継続課題】

分類※	上半期の課題認識	下半期の見通し
新規	る池上部の滞水除去対策を実施したが根本的な漏水は解消していない。 ③ 下半期から来年度にかけて、南部山浄水場No.3沈殿池の休止を伴う長期工事が計画されており、工事期間中の供給可能水量が限定的となる。通常運用時は支障が無いが、受水市町から緊急の増量要請等があった場合の対応に懸念がある。	③ 残り3つの沈殿池での運転は実績もあるので運転管理に支障はない。一方で、受水市町との送水流量調整に関して、通常時よりは柔軟性が低下するため、予め市町と情報共有し送水への影響を最小化するように努める。【継続課題】
仙塩工業用水道		
新規	① 本来は工業用水道ユーザー企業の所掌となる流量記録計に関わる費用（記録紙等の消耗品等）について当社の負担となっている事例があり整理が必要である。	① ユーザー企業に過度な負担とならないよう善後策を県と協議中である。【継続課題】
新規	② 郷六取水口付近の当社管理範囲外の樹木が、取水口監視カメラの障害となっている。強風等で倒木となった際のリスクもあり対応が必要である。	② 状況写真を提出し、県より河川管理者へ当該樹木の伐採を依頼中である。【継続課題】
仙台圏工業用水道事業		
継続	① 熊野堂取水場（名取川）の水利権水量遵守にあたり、ハンチング発生傾向があるポンプの設備特性を踏まえて運転をしていたが、原因分析したところ、流量計の問題である可能性が高いことが判明した。	① 流量計不具合箇所を特定して、修理が可能であれば実施し、早期復旧を図る。【継続課題】
新規	② 来年度に計画がある、仙台圏工水ユーザー企業の給水量増加により、配水量が300 m³/hほど増加する見込みである。配水池容量で対応できる時間が減少するため、油流入時等の対応に懸念がある。	② 送水ポンプの設定変更や、配水池水位を高めに維持する運用を検討するほか、油流入等の緊急時のユーザー企業との情報共有についても見直しを検討する。【継続課題】

分類※	上半期の課題認識	下半期の見通し
仙台北部工業用水道事業		
新規	① 仙台北部工水ユーザー企業より、ユーザー企業側の膜ろ過処理装置の膜閉塞に関連して、水質情報提供の依頼があった。工水濁度低減処理施設で藻類が増加したことが原因の可能性がある。	① 当該ユーザー企業へ、月1回の水質検査結果（濁度、色度、TOC、藻類数等）の提供を実施している。あわせて年1回冬季に濁度低減処理施設の清掃を実施しているが、清掃時期等の見直しを検討する。【継続課題】
仙塩流域下水道事業		
継続	① 中央監視装置の保守点検等において納入メーカーの協力が十分に得られない状況は解消されたが、更新の早期実施を進める必要がある。	① 切替工事開始を当初計画から9か月早め、令和6年11月より実施する予定である。【継続課題】
継続	② 2系水処理の設備故障が発生し、自動制御が不可能となり運用を停止した。大雨時に処理能力が不足し放流水質へ影響を及ぼす可能性があった。	② 関係企業の協力のもと、設備の修理を実施し、出水期を前に2系水処理の運用を再開した。【完了】
継続	③ 電気室に空調機がないため、夏場の記録的猛暑で室温が上がりインバーター等が停止する恐れがある。	③ 空調機設置にかかる費用等を確認中である。【継続課題】
阿武隈川下流域下水道事業		
継続	① 水処理施設が地盤沈下している懸念がある。専門業者による調査で水処理への影響の有無について検証する必要がある。	① 専門業者による水処理への影響調査を年度内に実施する予定である。【継続課題】
継続	② 電気室に空調機がないため、夏場の記録的猛暑で室温が上がりインバーター等が停止する恐れがある。	② 改築工事にて空調機の設置を完了した。【完了】
鳴瀬川流域下水道事業		
継続	① 電気室に空調機がないため、夏場の記録的猛暑で室温が上がりインバー	① 空調機設置にかかる費用等を確認中である。【継続課題】

分類※	上半期の課題認識	下半期の見通し
	ター等が停止する恐れがある。	
吉田川流域下水道事業		
継続	① 中央監視装置関連の故障が頻発している。製造が終了している部品については、基板修理専門業者等を活用した予備品の確保が必要である。	① 予備品を確保するとともに、中央監視装置の改築時期を当初計画から9か月早め、R7年4月から切替工事を実施する予定である。【継続課題】
継続	② 電気室に空調機がないため、夏場の記録的猛暑で室温が上がリインバーター等が停止する恐れがある。	② 空調機設置にかかる費用等を確認中である。【継続課題】

解説： ベンダーロックイン

外部に開示されていない独自技術を利用したシステムの運用等において、実質的にシステムの製造元（ベンダー）に、保守点検、修繕、改築等を依存せざるを得ない状況となり、競争性を確保した調達だけでなく、他のメーカーへの変更が困難になる事態をベンダーロックイン（vendor lock-in）と言います。ベンダーロックインを避けるためには、標準的でオープンな規格の採用や、システムの過度なカスタマイズを避ける等の方法があります。

その一方で、各メーカーの独自技術の採用にはメリットもあり、システムの導入時にベンダーロックインのデメリットが顕在化しないようメーカーと十分な協議を実施し、契約等においてサポートの努力義務を課すことが有効です。当社も、中央監視装置の更新にあたり事業期間終了後にも、合理的なサポートが継続されることを当社の株主であるメーカーと合意しています。

解説： 任意事業（小水力発電）

小水力発電事業は本事業の実施契約書にて定められている、義務的任意事業の1つです。仙南・仙塩広域水道用水供給事業においては七ヶ宿ダムから各市町まで水位差を利用した送水がなされているため、送水管路上に発電機（水車）を設置することで水位差のエネルギーを活用した温室効果ガスを排出しないクリーンな発電が可能です。

今年度から運用を開始した名取マイクロ水力発電所では、発電事業者である株式会社日水コンが年間約305MWh（売電収入として約1,000万円）の発電を計画しています。これは一般家庭の年間消費電力量約77世帯分相当となり、約134tのCO₂削減効果が得られる見込みです。なお、当社は発電事業者より発電収入の一部を借地料として受け取ります。

解説： TOC (Total Organic Carbon：全有機体炭素)

水中に存在する有機物の総量を、有機物中に含まれる炭素量で示したもので、「水の汚れ」を示す指標の一つとして用いられています。水道水質基準では「3mg/L 以下」、本事業の要求水準においては「1mg/L 以下（仙南・仙塩）」あるいは「1.3 mg/L 以下（大崎）」と定められています。水中の TOC が高いと有機物と消毒時に添加される塩素が化学反応を起こし、水道水の味を悪くし、発がん性のおそれがある物質（トリハロメタン）を浄水過程で生成します。そのため、週に 2 回処理工程水試験を行い TOC の監視をすることで、適切なタイミングと量で薬品や活性炭を注入し、安定的な水質管理を行っています。

解説： E260 (紫外線吸収度)

水中に含まれる有機物の量を示す指標の一つであり、水中の有機物が波長 260 nm の紫外線を吸収する度合いを表します。原水の E260 と浄水におけるトリハロメタン等の消毒副生成物の生成量には一定の相関があることが知られており、水道水質基準では規定されていませんが、社内独自の数値基準を設定し消毒副生成物の管理に役立てています。

参考資料 株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値

当社から運転維持管理業務を委託している、株式会社みずむすびサービスみやぎの、令和 6 年度第 2 四半期の財務数値を表 参-1、参-2 に示した。

表 参-1 財務数値（損益計算書系）（令和 6 年度）

単位：百万円

項目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
売上高	1,256	1,297			
売上総利益	1	▲16			
営業利益	▲40	▲58			
経常利益	▲40	▲56			
税金等調整前純利益	▲40	▲56			
純利益	▲40	▲56			

表 参-2 財務数値（貸借対照表系）（令和 6 年度）

単位：百万円

項目	前期末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
現金及び現金同等物の 四半期末残高	531	192	461		
純資産合計	342	301	245		
有利子負債残高	0	0	0		
負債合計	1,080	751	925		
総資産合計	1,422	1,052	1,170		

別紙1：予実比較表

【法人】

(単位：百万円)

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	1,702	1,769	3,471	6,890	50%
売上総利益	343	353	696	1,319	53%
営業利益	280	296	576	1,055	55%
経常利益	252	268	520	933	56%
税金等調整前当期純利益	252	268	520	933	56%
当期純利益	173	187	360	646	56%

<法人：予実比較分析>

法人としての上半期の売上高は概ね計画通りとなった。下半期は水道用水供給事業で受水量調整が見込まれるものの、概ね年間計画通りの着地見通しである。

法人としての上半期の営業利益は年間計画の55%と目安の50%を上回った。下半期は、上半期ほど水量影響による増収効果が見込まれないため、概ね年間計画通りの着地見通しである。

【大崎広域水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	364	375	739	1,370	54%
売上総利益	116	120	236	426	55%
営業利益	99	105	204	355	57%
経常利益	89	96	185	313	59%

【仙南・仙塩広域水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	379	368	747	1,471	51%
売上総利益	119	114	233	444	52%
営業利益	100	97	197	366	54%
経常利益	92	89	181	329	55%

<水道用水供給事業：予実比較分析>

上半期は、供給市町の独自水源の水質悪化等に起因した供給水量増加要請を受け、計画比増収増益となった。

年度末の見通しは、上半期に受水量を増やした市町の受水量調整が見込まれるため、売上高及び営業利益は計画を若干上回る着地となる見通しである。

【仙塩工業用水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	61	62	123	241	51%
売上総利益	21	22	43	85	51%
営業利益	20	22	42	82	51%
経常利益	18	19	37	72	51%

【仙台圏工業用水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	34	35	69	134	51%
売上総利益	13	13	26	50	52%
営業利益	12	13	25	48	52%
経常利益	11	11	22	41	54%

【仙台北部工業用水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	12	14	26	51	51%
売上総利益	2	4	6	11	55%
営業利益	2	2	4	8	50%
経常利益	2	2	4	7	57%

<工業用水道事業：予実比較分析>

上半期の売上高及び営業利益は概ね計画通りであり、年度末も同様の見通しであるが、ユーザー企業の増減により影響を受ける可能性がある。

【仙塩流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	338	347	685	1,348	51%
売上総利益	28	22	50	118	42%
営業利益	18	12	30	75	40%
経常利益	15	10	25	64	39%

【阿武隈川下流流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	338	362	700	1,319	53%
売上総利益	32	34	66	122	54%
営業利益	22	25	47	80	59%
経常利益	19	23	42	69	61%

【鳴瀬川流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	41	42	83	172	48%
売上総利益	5	5	10	22	45%
営業利益	3	5	8	16	50%
経常利益	3	4	7	14	50%

【吉田川流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	115	122	237	466	51%
売上総利益	4	7	11	22	50%
営業利益	1	3	4	7	57%
経常利益	0	2	2	3	67%

<流域下水道事業：予実比較分析>

上半期の売上高及び営業利益は概ね計画通りである。下半期は降雨影響が小さくなるため、年間計画を下回る可能性がある。